

「to不定詞」とは？

名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法の違い

不定詞とは

不定詞とは、動詞を使って英語の文章を詳しく説明するときを使うんだ。

不定詞を使うことで、英語の表現がとても広がる重要な単元だから理解が必要だよ。

構文では、「to + 動詞の原形」で作られるよ。

例

to do / to play / to practice / to eat など

am is areなどのbe動詞の不定詞は、原形の"be"を使って"to be"になるから注意しよう

不定詞には三つの用法があって、それぞれ役割が違うんだ。

1. 名詞用法

不定詞は文中で名詞のような役割を果たすことがあるんだ。

名詞は文の中では①主語・②目的語・③補語の役割をするよ。

2. 副詞用法

不定詞は文中で副詞のような役割を果たすことがあるんだ。

副詞は文の中では「動詞・形容詞・副詞を説明する」働きがあるんだ。

3. 形容詞用法

不定詞は文中で形容詞のような役割を果たすことがあるんだ。

形容詞は文の中では「名詞を説明する」働きがあるんだ。

それぞれの役割について例を用いて詳しく説明していこう。



名詞用法

to不定詞の名詞用法は、「～すること」という意味になるんだ。

例えば、

- ・ to do = すること
- ・ to run = 走ること
- ・ to study = 遊ぶこと

のように動詞を「～こと」という名詞のようにすることができるんだ。

そして、名詞のように使えるということは、文の中で主語・目的語・補語の役割ができるんだ。

例文を見てみよう。

主 語：To play soccer is fun.
主語 動詞 補語

目的語：I like to play soccer.
主語 動詞 目的語

補 語：My hobby is to play soccer.
主語 動詞 補語

主 語：To play soccer is fun. (サッカーをすることは楽しい)

目的語：I like to play soccer. (私はサッカーをすることを好みます)

補 語：My hobby is to play soccer. (私の趣味はサッカーをすることです)

どの役割であっても名詞だから「～すること」という意味になるんだね。



副詞用法

to不定詞の副詞用法は、「～するために」「～して」という意味になるんだ。

一つ目は、目的として「～するために」という意味になる。

例えば、

「He went to town to see a movie. (彼は映画を見るために町に行った)」

と言う文を見てみると、「彼は町に行った」だけだと何をしに行ったのかわからないよね。

そこで、「英語を見るために」のように、文を説明することができるよね。

二つ目は、感情の理由として「～して」という意味になる。

例えば、

「I am happy to hear the news. (私はその知らせを聞いてうれしい)」

という文を見てみると、「私は嬉しい」だけだと何がうれしいのかわからないよね。

そこで、「知らせを聞いて」という理由をつけることで、うれしいという感情の理由がわかるようになる。

これが不定詞の副詞用法の主な使い方だよ。

He went to town to see a movie.

主語

述部

～するために：目的

I am happy to hear the news.

主語

述部

～して：理由



例文：He went to town to see a movie.

主語：彼は

述語：町に行った

副詞：映画を見るために

例文：I am happy to hear the news.

主語：私は

述語：うれしい

副詞：知らせを聞いて

形容詞用法

to不定詞の形容詞用法は、「～するための」「～するべき」という意味になるんだ。

例えば、「I have a lot of books to read. (私は読むべきたくさん本がある)」と言う文を見てみると、

「私はたくさん本がある」という文章で、本という名詞について「読むべき」という詳細な情報を追加しているんだ。

形容詞なので、名詞を修飾する働きをしていることがわかるね。

I have a lot of **books** to read.

<名詞>
本

<形容詞>
読むべき

➡ 読むべき本



例文：I have a lot of books to read.

主語：I

述語：have a lot of books

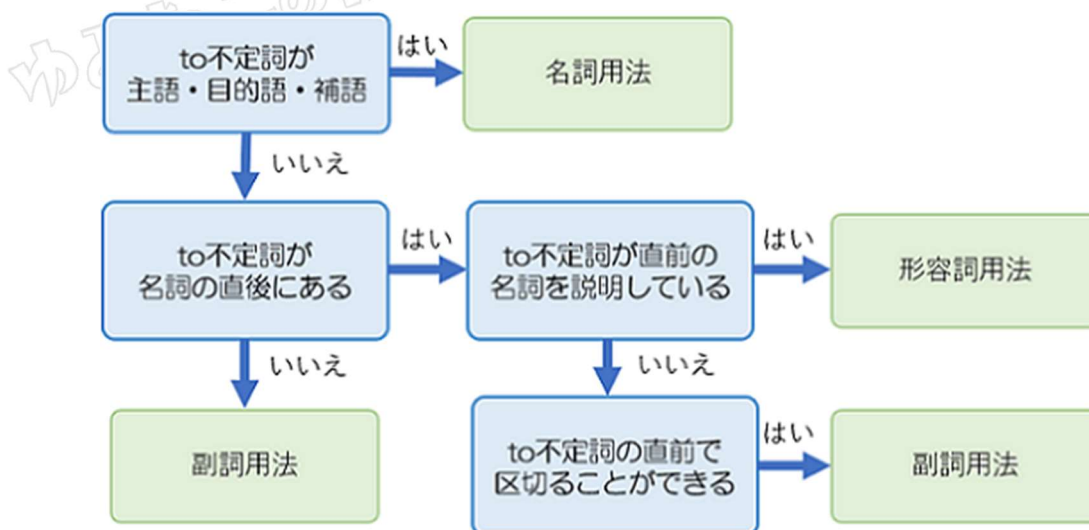
形容詞：to read

不定詞の三用法の見分け方

不定詞はすべて「to + 動詞の原形」の形になっているため、見分け方が最初はわからないよね。

そこで、フローチャートを作ってみたから、これを参考にしてみてね。

- ① to不定詞が主語・目的語・補語の位置にある ⇒ 名詞用法(～すること)
- ② to不定詞が名詞の直後にあり、その名詞を説明している ⇒ 形容詞用法(～するための)
- ③ to不定詞が動詞の目的になっている ⇒ 副詞用法(～するために)
- ④ to不定詞が感情の理由になっている ⇒ 副詞用法(～して)



不定詞の三用法の見分け方の練習問題

実際に上のフローチャートを使って見分けてみよう。

問題 1 : I like to climb the mountain.

問題 2 : Would you like something to eat?

問題 3 : He is sad to hear the result.

問題 4 : I often visit Kyoto to see some temples.

↓

↓

↓

解答 1 : 名詞用法

日本語訳 : 私は山に登ることが好きです

解説 : 「to climb」という不定詞が、動詞「like」の目的語になっていたため、名詞の形になっている。また、～することという意味になっている。

解答 2 : 形容詞用法

日本語訳 : 何か食べるものは欲しいですか？

解説 : 「to eat」という不定詞が、somethingという名詞の後に続いていて、名詞を修飾して「食べるための物」という形容詞の形になっている。

解答 3 : 副詞用法 (感情の理由)

日本語訳 : 彼はその結果を聞いて悲しい

解説 : 「to hear」という不定詞は主語・目的語・補語ではなく、直前はsadという形容詞のため、副詞用法となり、悲しいという感情の理由になっている。



解答4：副詞用法（目的）

日本語訳：私はいくつかの寺を見るためによく京都へ行く

解説：「to visit」という不定詞は主語・目的語・補語ではない。
直前はKyotoという名詞のため、形容詞用法か副詞用法となる。
最後に、Kyoto to see some templeで区切られるかどうかで判断すると、
「いくつかの寺を見るための京都」とつなげるのは不自然であるため、
「いくつかの寺を見るために」と区切って「京都を訪れる」とつながるため、
目的の副詞用法であると考えよう。

まとめ

to不定詞を使うことで、文に詳しい意味を追加することができるんだ。

to不定詞の三用法として名詞用法・形容詞用法・副詞用法があるため、それぞれの見分け方をマスターしよう。

